

## 社会調査の基礎

**問題 84** 社会調査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 統計調査とは、社会事象を質的に捉えることを目的とした社会調査である。
- 2 市場調査とは、行政の意思決定に役立てることを目的として市場の客観的基礎資料を得るための社会調査である。
- 3 世論調査とは、自治体の首長の意見を集約するための社会調査である。
- 4 アクションリサーチとは、特定の状況における問題解決に向けて調査者が現場に関与する社会調査である。
- 5 センサスとは、企業の社会貢献活動を把握することを目的とした社会調査である。

**問題 85** 質問紙を用いた調査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 調査対象者から口頭で聞き取った内容を、調査員が記入する方法を自記式という。
- 2 プライバシーに関する質問は、自記式の方が他記式よりも望ましい。
- 3 自記式の方が他記式よりも、誤記入が起こりにくい。
- 4 他記式の方が自記式よりも、調査対象者以外の人が本人の代わりに回答する可能性が高い。
- 5 調査対象者が調査員に口頭で答えた後に、調査対象者が調査票に記入する方法を他記式という。

**問題 86** 測定と尺度に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 測定とは、一定の規則や基準を用いて、調べたい対象の経験的な特性に数値や記号を与える手続である。
- 2 信頼性とは、測定したい概念をどのくらい正確に測定できているか、という測定の適切性のことをいう。
- 3 妥当性とは、同じ調査をもう一度行ったときに同じ結果になる安定性のことをいう。
- 4 社会調査の測定では、信頼性と妥当性のどちらかが満たされていればよい。
- 5 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度という四つの尺度水準のうち、大小関係を測定することができるのは、名義尺度である。

**問題 87** 調査票の回収後の手続に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 調査票で記入者が回答していないところは、欠損値として数値を割り当てる必要はない。
- 2 回収した調査票が正確かどうかを確認する作業のことをコーディングという。
- 3 40歳以上65歳未満を対象とした調査で、40歳代のみを対象とした質問項目の場合、50歳以上の当該質問項目の回答は「非該当」として処理する。
- 4 複数の質問項目の組合せの論理的な矛盾は調査票作成時に確認するので、回収後に確認する必要はない。
- 5 入力ミス以外のはずれ値は、必ず除去しなければならない。

**問題 88** 量的データの集計や分析に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 中央値とは、データの中で出現率が一番高い値のことである。
- 2 度数分布表は、一つの変数について、それぞれのカテゴリー(階級)に当てはまる度数をまとめた表である。
- 3 分散と標準偏差は、どちらも平均値からの散布度を示すが、これら二つの指標には関係はない。
- 4 クロス集計表により変数間の関係を観察するには、相対度数ではなく、観測度数を表示する。
- 5 ピアソンの積率相関係数は、二つの変数間の非線形関係を表している。

**問題 89** 調査方法としての面接法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 非構造化面接では、調査者が事前に定めた質問項目の順序で調査を進める。
- 2 半構造化面接では、準備した質問項目のうち半数を質問する。
- 3 非構造化面接では、通常、回答の選択肢を印刷した回答票を提示して調査を進める。
- 4 構造化面接では、事前に準備をせず、調査対象者が自由に語りやすいように調査を進める。
- 5 半構造化面接では、面接中に新たな質問項目を追加することがある。

**問題 90** 質的調査の記録やデータの収集方法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 仮説検証などに必要な数量的なデータの収集を行う。
- 2 調査対象者を抽出する方法として、主に無作為抽出法を用いる。
- 3 音声データや映像データを用いることができる。
- 4 手紙や日記などの私的文書は除外する。
- 5 面接者は、インタビューの場において相手の発言内容の一言一句を正確にメモすることに専念する。